

III その後のフィルム

(1) フィルムの行方

フィルムは各地で上映された。そのため何本か焼き付けられたうちの二本を監督だった久米が所持していた可能性が高い。なお、久米は自分で35ミリの手回し撮影機を購入し撮影するほどの凝りようであったため、改選社から監督を依頼されたと考えられる。

各地で上映会が開催された後このフィルムは存在は忘れ去られたよつである。再び脚光を浴びることができたのは里見淳に負つたところ大きい。

久米の一人息子の昭二が一九七五昭和五十年の秋に、久米の親友であった里見のもとを訪ねたところ、「君の親父さんが、昔撮つたフィルムがあるはずだ。捜してみようと言われた。そして自宅物置の棚から、筒の缶が十数個のみから、中から35ミリフィルムが続々と出てきたのである。35ミリのフィルムは驚くほど保存状態の良いものもあつた。一欠、湿気のためか接着し劣化が激しいものもあつた。

昭二は当時、NHKのディレクターをしていたため、早速フィルムをNHKに持ち込み、専門家の手により16ミリフィルムへ焼き直した。そして上映時間四十三分のフィルムとして再編集されたのである。

なお、里見が撮影された部分は、フィルムには残つておらず、フィルムをよつやく何枚かのスチールにできただけであつた。その部分は自宅の壁を供たつと一箱に輝のほりを掲げるシーンである。

当時のフィルムはセルロイド製のため自然発火して火事になることも多かつたといふ。しかし、本フィルムは内側に鉛をひいた鉄の缶に納められていたため、奇跡的に残つたといふ。

(2) 偲ぶ会での上映会

一九七六昭和五十二年二月二十八日、久米正雄を偲ぶ会が開催された。これはフィルムの発見を機に企画されたもので、発起人には井伏鱒二・小林秀雄・里見淳らが名を連ねる。

偲ぶ会では映像が映し出され、その映像を見ながら久米の長男・昭二が解説をした。偲ぶ会に併せて映画登壇者一覧表という資料が作られている。昭二用とされるものには、映像の時間、撮影場所、登場人物の情報などが書き加えられており、この資料をもとに昭二が解説をしていることが分かる。

この映像についての久米の功績は監督として撮影に加つたこと、フィルムを後世に残したこと、もつとある。それは久米の手腕である。徳富蘇峰や広津柳浪などの大家が撮影に協力し時には笑顔を見せたり、武者小路は書斎での撮影の後に家を出て河原散策に向かうなど、文壇の先輩は普段見せない表情をフィルムに残している。

また、菊池寛が照れ臭そうに去る場面など、撮影者が久米であつたことと無関係ではない。そして、芥川が「ほかに去がないから」といって木音りをするなど、他の作家に見せないような行動をとつたのは、親友である久米のためであつたこと言までもない。

なお、この偲ぶ会の際、現代日本文学巡礼とは異なるフィルムも上映されている。映画登壇者一覧表の裏面には、大正十三年頃のプライベートのフィルムと記載がある。このフィルムについてはIVで詳述する。

映画登壇者一覧表

改選社出版部 (改選社 書林社) 昭和五十二年二月二十八日

① 久米正雄 (本人) 監督・主演 (1976)

② 芥川龍之介 (本人) 出演 (1976)

③ 武者小路実篤 (本人) 出演 (1976)

④ 徳富蘇峰 (本人) 出演 (1976)

⑤ 広津柳浪 (本人) 出演 (1976)

⑥ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

⑦ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

⑧ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

⑨ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

⑩ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

⑪ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

⑫ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

⑬ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

⑭ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

⑮ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

⑯ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

⑰ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

⑱ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

⑲ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

⑳ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

㉑ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

㉒ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

㉓ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

㉔ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

㉕ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

㉖ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

㉗ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

㉘ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

㉙ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

㉚ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

㉛ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

㉜ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

㉝ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

㉞ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

㉟ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

㊱ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

㊲ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

㊳ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

㊴ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

㊵ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

㊶ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

㊷ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

㊸ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

㊹ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

㊺ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

㊻ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

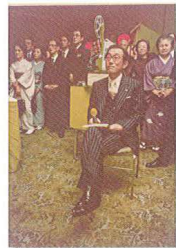
㊼ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

㊽ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

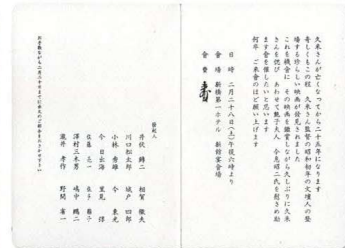
㊾ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

㊿ 小宮山一 (本人) 出演 (1976)

「映画登壇者一覧表」



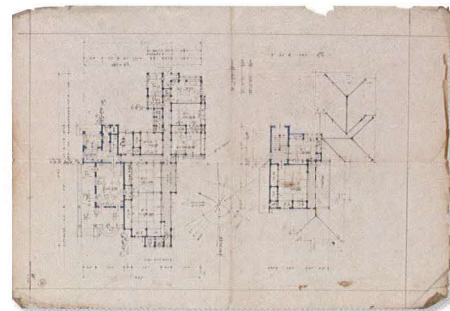
解説をする久米昭二



「久米正雄を偲ぶ会」の案内状



久米家所蔵フィルム



久米邸平面見取り図

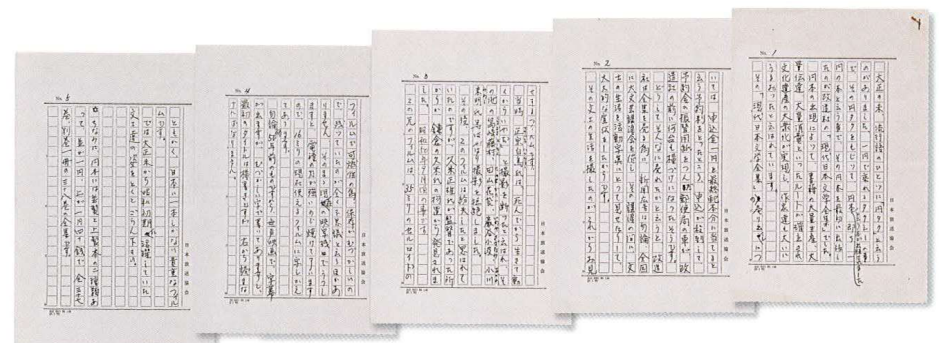


在りし日の久米正雄邸(鎌倉二階堂)

文学館での活用		
展示・放映期間	館名	企画展名
通年	田端文士村記念館	常設展にて放映
2013年 9月21日～10月19日	桐蔭学園文化センター	「桐蔭文学展 教科書に載った文豪 芥川龍之介」
2013年 11月2日～12月29日	兵庫県立美術館	「昭和モダン 絵画と文学1926-1936」
2014年 10月10日～12月7日	田端文士村記念館	「田端の王様・芥川龍之介 ～プリリアントな作家生活 その始まりから終焉まで～」
2015年 3月6日～3月8日	鎌倉市川喜多映画記念館	「鎌倉・映画・文学 ～鎌倉を彩る名作の世界～」
2017年 6月24日～9月16日	日本近代文学館	「教科書のなかの文学／教室のそとの文学 ー芥川龍之介「羅生門」とその時代」
2017年 9月16日～10月22日	菊池寛記念館	「没後90年 芥川龍之介 ーその青春と友情」
2018年 6月23日～9月9日	芦屋市谷崎潤一郎記念館	「谷崎×芥川 一人間的な、余りに人間的な」
2018年 10月27日 ～2019年 1月20日	前橋文学館	「この二人はあやしい ー芥川龍之介と萩原朔太郎ー」
2018年 11月17日～12月2日	勝央美術文学館	「芥川龍之介と木村毅～文豪からの手紙」
2018年 11月20日～12月26日	菊池寛記念館	「生誕130年・没後70年記念 菊池寛をふりかえる」
2019年 2月26日～5月6日	田端文士村記念館	「恋からはじまる物語 ～作家たちの恋愛事情～」
2019年 10月1日～10月27日	勝央美術文学館	「最後の江戸っ子 岡本綺堂・経一の仕事」
2019年 10月1日 ～2020年 1月26日	田端文士村記念館	「芥川龍之介の生と死 ～ぼんやりした、余りにぼんやりした不安～」

テレビ番組等での活用		
放送日	放送局	番組名(内容)
2014年 7月14日	NHK	「NHKニュース おはよう日本」
2014年 12月7日	BSジャパン	「文豪の食彩」
2014年 12月22日	日本テレビ	「ニノさん」全人類サミット 100人の偉人が大降臨! SP
2015年 5月5日	テレビ東京	「開運!なんでも鑑定団」
2015年 11月23日	テレビ朝日	「クイズプレゼンバラエティーQさま!!!」
2015年 12月2日	BS朝日	「黒柳徹子のコードモクニ」～夢を描いた芸術家たち～2時間スペシャル「芥川龍之介と太宰治」
2016年 1月26日	NOTTV番組	「又吉直樹の構説ぶらり名作百景」
2016年 3月21日	BS朝日	「お墓へ行こう 有名人のお墓が語る人生マル秘話」
2016年 5月28日	BSプレミアム	「映像の世紀プレミアム 第1集 世界を震わせた芸術家たち」
2017年 5月9日	NHK	NHK高校講座「あらためまして ベーシック国語」
2018年 2月9日	BS-TBS	「三宅裕司の昭和お宝フィルム大発掘」
2018年 8月11日・18日	TBS	「新・情報7daysニュースキャスター」ビートたけしの刮目NEWS
2018年 8月25日	テレビ朝日	「印象カエルセミナー」偉人の印象を変える
2018年 9月25日	テレビ東京	「開運!なんでも鑑定団」

教科書での活用		
出版年	製作会社	タイトル
2017年	第一学習社	「国語総合デジタル教科書」指導者用DVD-ROM
2018年	数研出版	「プレミアムカラー国語便覧・クリアカラー国語便覧データ集」 高校用国語参考書・指導者用DVD-ROM



久米昭二 「久米正雄を偲ぶ会」での説明原稿



撮影機を構える久米

「現代日本文学巡礼」が近代文学について考えられる上で重要なこととは言うまでもない。そのため、フィルム及びそれをセリとしたスチール写真は、文学館における企画展・文学講座・テレビ番組など様々な方面で利用されている。また、昨今では教科書教材などに利用の幅が広がっている。

映像の利用にあたっては、芥川龍之介の部分が最も多く、バラエティー番組などで放映されることもある。また近年は、菊池寛や徳田秋聲などの節所が利用される機会も増えている。

(3) 活用されるフィルム

講座・講演会での活用		
開催日	講師／主催等	タイトル
2014年 11月16日	徳田秋聲記念館	金沢三文豪月間特別シンポジウム「秋聲文学の今日性ーいま秋聲がおもしろい!」
2014年 11月22日	大田区立山王草堂記念館	「秋の馬込文士の足跡をたずねて ～徳富蘇峰を中心に～」
2014年 12月6日	庄司達也(東京成徳大学)	「ポップカルチャー学会 第51回大会」に於いて発表
2015年 11月1日	田端文士村記念館	「芥川龍之介 田端の家復元模型制作記念講演会」
2016年 1月16日	大田区立龍子記念館	第4回記念講座「馬込文士が語る芥川龍之介」
2016年 2月7日・14日 21日・28日	東京都北区滝野川文化センター 庄司達也(東京成徳大学)	区民講座「北区に暮らした作家たち その作品と生涯」 ～芥川龍之介を読む～
2016年 3月19日	田端文士村記念館	田端ひととき散歩「芥川龍之介の日常生活～周辺の人びとが見たその素顔～」
2016年 10月1日	大田区立龍子記念館	馬込文士村教養講座Ⅲ「文士村の魅力 馬込文士村と田端文士村」
2018年 11月10日	菊池寛記念館文学展実行委員会 日本ペンクラブ	シンポジウム「菊池寛の高松」(ふるさとと文学2018)